

# 教員紹介

Interview

## 岩崎 貴也 先生

基幹研究院自然科学系 講師

### Profile

兵庫県出身。京都大学理学部卒業後、首都大学東京(現 東京都立大学)大学院理工学研究科で博士(理学)の学位を取得。千葉大学、東京大学、京都大学での研究員、神奈川大学での特別助教を経て、2021年4月に本学に着任。

### Q1 研究者・大学教員を志したきっかけをお聞かせください。

応用より基礎を突き詰めて学ぶ方が性に合っている気がしたので理学部に進学しましたが、10代の頃から何がなんでも研究者・大学教員にと考えていたわけではありませんでした。ところが、研究室に入って実際に研究を始めてみると、「自分の研究に関して誰よりも深く自分が考え、自分でフィールドに出て調査をし、自分で実験・解析をし、誰よりも先に自分が結果を知って考察できる」という自由なところがとても楽しく、あつという間にどっぷりと研究生生活にはまっていきました。研究室の先生や先輩、学会での研究仲間と付度無しにガッツリ自由に議論して良い(むしろするべき)という雰囲気がとても魅力的だったのも大きいです。そのような研究生生活をずっと続けていきたいと考えたのが、研究者・大学教員を志したきっかけです。もちろん実際には様々な仕事があって研究だけをするわけではないのですが、自由に研究するというスタイルは今でも大事にしています。

### Q2 ご研究のテーマ、特にワクワクすることをお聞かせください。

研究では山や地域、大陸など様々な地理的スケールでの野生植物の多様性に興味を持っており、植物が辿ってきた進化の歴史や、自然界での生存メカニズムについて、フィールド調査や分子実験、コンピュータ解析などを総動員し

での解明に取り組んでいます。フィールドでは、まだ知られていない様々な多様性(例えば、この地域のもは他の地域のものとなにか違うぞとか、この種とあの種は何か関係がありそうぞとか)に気が付きます。その原因・理由について研究室での分子実験やコンピュータ解析を駆使して調べていくのですが、最初に考えた仮説通りでも仮説と違う結果でも、客観的な証拠を積み重ねて深く考えるという研究プロセス自体がとてもワクワクします。

### Q3 フィールドワークならではの「ご苦労や失敗談」をお聞かせください。

フィールドワークでは安全管理が一番の課題です。山の中でクマに遭遇したことはまだありませんが、クマの気配(とても臭い)を近く感じたことは何度かあります。北海道での調査時、ヒグマが活発に活動する夕方遅めの時間帯になってしまい、ほんの数分前に通った場所にヒグマの糞が落ちていた時は肝を冷やしました。イノシシやヤマシ、ニホンザル、野犬などに会うこともありますし、今は何よりも安全管理に気をつけて調査をするようにしています。

### Q4 将来の夢をお聞かせください。

生物多様性について深く理解し、大学での経験を活かして大学でも企業で広く活躍できる

ような人材を1人でも多く育てていきたいと考えています。まだ研究室を立ち上げたばかりということもあり、まずは学生が自由な学び・研究に没頭できるような良い研究室環境を整えたいというのが一番大きいです。1つずつ研究を積み重ねていくことで、日本列島における植物の進化に関して新しい共通性を明らかにし、社会における生物多様性を“見る”解像度を少しでも高めることで、生物多様性保全に貢献できればと思っています。

### Q5 お茶大生へのメッセージをお願いします。

人生において、大学生活ほど自由な期間はなかなか得られないかもしれません。ぜひいろいろな友達を作り、いろいろなことを学び、いろいろなことに挑戦してください。自分の今の価値観だけに拘らず、視野を広げ、新しい価値観を作っていく場として大学を活用してもらえればと思っています。皆さんがお茶大を卒業する時に大きく成長できているよう、教員の1人としてしっかりサポートしていきたいと考えています。

担当:宮崎 充彦  
基幹研究院自然科学系 准教授



# Takaya Iwasaki



### Q1 現職に就くまでの経緯を教えてください。

博士後期課程に在学中、当時のアカデミック・プロダクション主催のポスドク・博士課程生のワークインプログレスというイベントに参加しました。学生による研究内容・自己アピールについてのポスター発表と、企業の方との個別交流会があり、多くの企業の方とお会いしてお話しました。自分のポスター発表に、想像していたよりも多くの企業の方が関心を持って訪れてくださり、とても驚いたのを覚えています。多様な企業において様々な理由で、心理学の知識をもった人材が求められていると知るきっかけとなりました。このイベントで資生堂の人事担当の方とお話し、新卒採用にエントリーしました。たまたまこのイベントで資生堂の方と出会いましたが、自分の関心領域と会社の理念が共通しており、運のよい出会いだったと感じています。

### Q2 心理学は現在の仕事にどのように活かしていますか。

心理学の様々な研究知見や理論についての知識、インタビューやアンケートといった調査手法、統計の知識や分析スキル、すべてが現在の仕事に活かしています。「企業に就職すると、大学での自分の専門とは全く違うことをすることが多いんでしょ?」と聞かれることも結

構あるのですが、私の場合は日々の仕事で活かせる場面がとても多いです。

私は現在資生堂で、基礎研究や製品開発のための市場・お客さま分析を担当しています。分析にあたり、インタビューやアンケートを実施することもあります。また、お客さまの気持ちを理解するにあたり、心理学の様々な研究知見や理論を参考にすることもあります。過去にはDX(デジタルトランスフォーメーション)・データ分析の仕事を担当していたこともありますが、統計や分析スキルをフル活用していました。統計についての基礎知識があることは、デジタル化やデータ活用の進む世の中において、とても役に立つと感じています。

そして、専門の心理学が役に立つ場面もありますが、大学院で学び培った論理的思考力や仮説立案・検証といった研究の基本スキルが仕事に役立つと感じています。専門性と研究スキルの両方が役に立っていると感じます。

### Q3 お茶大生にメッセージをお願いします。

月並みなコメントになってしまいますが、在学中にできることを精一杯楽しんでください。私は心理学を仕事にしたいと思い博士後期課程まで進みましたが、専門の知識やスキルはもちろん、その他の学んだこともいろんな場面で活かしています。学部や博士前期課程の頃に受講していた他分野の知識が仕事でも私生活でも活き

るときがあって、受講していたよかったなと思います。ふとしたときに、もっと学んでいたらよかったなと思うときもあるくらいです。躊躇せずに自分の興味関心にしたがってたくさん学び、自分の糧にしてください。お茶大にはまじめな方が多いので、私なんか言われなくてもみなさんたくさん学ばれそうですね。

また、お茶大在学中に出会った友達は私の財産だと思っています。同じ学科やサークル、その他の社会活動で出会った人との縁はその後も続いて、様々な場面で自分の助けになっています。研究や勉強以外の時間も楽しむことが、結果としてその後の人生にもいい影響を及ぼしています。学びも遊びも、精一杯楽しんでくださいね。

担当:今泉 修  
人間発達教育科学研究所 准教授



# 卒業生紹介

Interview

## 高村 愛 さん

株式会社資生堂

### Profile

2013年3月お茶の水女子大学文教育学部人間社会科学科卒業。2015年3月お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻心理学コース修了。博士(人文科学)。2018年4月株式会社資生堂入社。現在に至る。



# Ai Takamura

大学で得たものすべてが今の私をつくっています